授業科目名 Course Name	デジタル時代の観光 Tourism in the Digital Age	教員名 Course Instructor(s)	吉田 秀政 （実務経験のある教員／博士（学術））
		Eメールアドレス E-mail address	
授業形態 Class Format	講義	授業の方法 Mode of Instruction	単独
科目コード Course Code	DHTM304	配当年次・開講学期 Allocated Year & Semester	3年/4年・後期
単位数 No. of Credits	2	卒業要件 Required or Elective to Graduate	全コース：選択
コース Track	全コース	オフィスアワー Office Hours	授業終了後随時。但し、E-mailにてアポイントメントを取ること
実務経験 Practical Work Experience	あり	教員の免許状取得 Teaching License	
到達目標 Goals	1.観光において、データが重要である理由を説明できる。 2.単純集計、クロス集計、相関分析等の基本的な考え方を理解し、表計算ソフトと生成AIの両方を用いて、データの整理と解釈に活用できる。 3. 表計算ソフトと生成AIによる処理を比較しながら、それぞれの利点と限界を理解し、分析結果の妥当性を確認できる。 4.自由記述分析の基本的な方法を理解し、生成AIを用いて要約、分類、論点整理を行い、原文と照合して妥当性を確認できる。 5.データをもとに問題を抽出し、課題を整理し、具体的な方策を検討できる。 6.グループで分析結果を共有し、問題、課題、方策を含む提案としてまとめることができる。		
授業の概要 Course Overview	観光は、宿泊、飲食、交通、体験、イベント、物品販売などが連動する地域活動であり、勘や経験だけでなく、データをもとに現状を把握し、事業改善の方向性を考えることが求められる。本授業では、問題抽出・課題検討・方策提言の考え方を踏まえながら、単純集計、クロス集計、相関分析、自由記述分析を用いた基礎的な分析を行う。そこで、比較的操作しやすい表計算ソフト（Microsoft Excel上で動作する配布マクロ）と生成AI（ChatGPT Go等の低価格帯有料プラン）を併用し、データの点検・整理・集計・解析、要約、解釈を行う。表計算ソフトによる再現可能な処理と、生成AIによる効率的な整理・解釈・補助を比較し、それぞれの特性と限界、結果の妥当性を確認する方法を学ぶ。最終的には、これらの結果を踏まえ、グループワークを通じて、観光に関わる事業や地域の問題、課題、方策を提案としてまとめる。		
ディプロマ・ポリシーとの関係 Diploma Policy Objectives	DP2　グローバル・リベラル・アーツ、国際ビジネス・マネジメント、ホスピタリティ・観光マネジメント、英語教育の各コースの教育を通じて基礎および応用知識を身につけ、活用する能力を身につけている。 DP4　日英両語における高度なコミュニケーション能力を身につけている。		
アクティブ・ラーニング Active Learning	1-(5) ジャーナル・ライティング 3-(2) 熟考する時間 4-(1) 対話式講義 4-(3) 自由討論 4-(4) 事例研究 4-(9) 質問に対するグループワーク 4-(10) ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア		

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">5-(1) 学生が協力して行うプロジェクト</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項 Prerequisites / Remarks
授業計画
Course Schedule</td><td colspan="3">・本授業は統計初学者を対象とし、統計学の事前履修は必要としない。数式やマクロの作成ではなく、分析結果の読み取りと、観光（来訪者・消費者）に関わる問題・課題・方策への接続を重視する。
・第4回授業までに、生成AIを各自で準備し、後期授業期間中に利用できるようにすること。
・本授業においては、特定の生成AIサービスの利用を必須とはしない。ChatGPT Go、または表計算ファイルの読み込み、要約・分類、データ分析等について同程度以上の機能と利用上限を備えた、他の事業者が提供する生成AIサービスを使用することができる。その場合、ChatGPT Goと同程度の低価格帯を目安とする。
・第3回以降は、Microsoft Excelのデスクトップ版をインストールしたノートパソコンを毎回持参すること。第4回までに、教員が配布するマクロ有効ブック（.xlsm）を実行できる状態にすること。なお、本授業は各種のプログラミング技術の習得を目的とはしない。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">授業計画
Course Schedule</td><td>No</td><td>内容</td><td>授業外学習</td></tr>
<tr><td>1</td><td>授業全体の理解
～授業の目的と進め方～
授業の目的、全体構成、到達目標、成績評価方法を確認する。あわせて、本授業で扱う基本概念を共有し、授業全体の見通しをもつ。</td><td>事前：観光分野でデータ分析が積極的に使われている例を一つ挙げること。（90分）
事後：リフレクションペーパー（学んだこと・気づいたこと・疑問に思ったこと）提出（90分）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>観光におけるデータドリブン・マネジメントとデータ収集
～OODA・PDCAとマーケティングデータ～
観光事例を通じ、マーケティングデータの役割と、顧客理解、ターゲティング、個別対応、費用対効果、商品・サービス開発への活用を理解する。データの内容を整理し、入手元を区別する。データ収集・蓄積方法を概観し、目的に応じたマーケティングリサーチと品質・倫理の基本を学ぶ。データ分析と実行・評価の接続を踏まえて、本授業で扱う来訪者アスキングデータを位置づける。</td><td>事前：身近な観光サービスを一つ選び、誰の何をよくするために、どのような情報を、どこから集めたいかを整理すること。（90分）
事後：リフレクションペーパー提出（90分）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>来訪者アスキングデータの理解とデータセットの作成
～来訪者の回答を分析できる形に整える～
本授業で扱うデータの調査目的、対象、場所、時期、回答方法を確認し、調査票とデータ表を照合し、回答例の一部を用いてExcelで小規模なデータセットを作成し、表記揺れや入力誤りを点検する。元データの保存、修正内容の記録、個人情報の除外を確認し、第4回以降に使用するデータの構造を理解する。</td><td>事前：配布された調査票と項目一覧を読み、質問と回答形式の対応、単位や無回答など整理時に確認したい点を挙げること。（90分）
事後：リフレクションペーパー提出（90分）</td></tr>
<tr><td>4</td><td>記述統計の基礎
～来訪者アスキングデータから全体を捉える～
第3回で構造と整理方法を確認した来訪者アスキングデータを用い、記述統計が手元のデータの特徴を整理する方法であることを学ぶ。単純集計による度数・割合・構成比と、数値項目の平均・中央値・ばらつきの基本的な見方を確認する。項目ごとの有効回答数と割合の分母に注意し、表計算ソフトの結果と生成AIによる要約・整理を照合する。数式の導出よりも、項目に応じた読み取りを重視する。</td><td>事前：配布資料と来訪者アスキングデータの項目一覧を読み、人数や割合を知りたい項目と、数値の中心やばらつきを知りたい項目を一つずつ挙げること。（90分）
事後：リフレクションペーパー提出（90分）</td></tr>
<tr><td>5</td><td>記述統計の実践
～表計算ソフトと生成AIによる単純集計と全体像の把握～
教員が授業用に整えた来訪者アスキングデータを用</td><td>事前：課題データから、全体像を捉えるために確認したい項目を二つ選び、確認したい内容とその理由を整理すること。（90分）</td></tr>
</table>

		い、グループで単純集計を行う。数値項目については平均・中央値・ばらつきも確認する。表計算ソフトによる処理結果と生成AIによる整理・解釈を照合し、手元のデータの全体傾向や特徴を読み取る。最後に、グループごとにミニ発表を行う。	事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	6	**クロス集計の基礎** **～表計算ソフトと生成AIを用いた違いの読み取り～** クロス集計の基本的な考え方を学び、二つの項目を組み合わせて比較する意義を理解する。表計算ソフトの仕組みと結果を確認し、生成AIで結果の要約、整理、解釈補助を行う方法を学ぶ。	事前:配布資料を読み、どのような二項目を組み合わせると違いが見えやすいかを考え、候補を二つ挙げること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	7	**クロス集計の実践** **～表計算ソフトと生成AIによるグループ解析・分析～** 教員が授業用に整えた来訪者アスキングデータを用いてグループでクロス集計を行い、表計算ソフトで得た比較結果と生成AIによる整理結果を照合しながら、標本内にみられる属性や条件別の傾向の違いを読み取る。最後に、グループごとにミニ発表を行う。	事前:課題データから、比較したい項目の組合せを一つ選び、どのような差が表れそうか仮説を立てておくこと。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	8	**相関分析の基礎** **～表計算ソフトと生成AIを用いた関連性の読み取り～** 二つの数値項目の関係を捉える相関分析の基本的な考え方を学ぶ。散布図と相関係数の見方を確認し、関係の方向と強さを読み取る。表計算ソフトによる結果と生成AIによる整理・解釈を照合する方法を学び、相関関係と因果関係は異なることを理解する。	事前:配布資料を読み、観光に関わる二つの数値項目で、関係がありそうな組合せを一つ挙げること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	9	**相関分析の実践** **～表計算ソフトと生成AIによるグループ解析・分析～** 教員が授業用に整えた来訪者アスキングデータを用いてグループで相関分析を行う。表計算ソフトで散布図と相関係数を確認し、生成AIによる整理・解釈と照合しながら、関係の方向と強さを読み取る。相関から因果関係を断定しないことに留意し、読み取れることと断定できないことを整理して共有する。	事前:課題データから、関係がありそうな二つの数値項目を選び、どのような関係が見られるか仮説を立てること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	10	**自由記述分析の基礎** **～生成AIを用いた要約・分類・論点整理の方法～** 自由記述データの特徴を理解し、要約、分類、論点整理の基本的な考え方を学ぶ。あわせて、分類基準の明示、原文との照合、少数意見の扱い、個人情報への配慮など、生成AIを用いる際の注意点を確認する。	事前:配布資料を読み、自由記述データからどのような情報が読み取れそうかを考え、整理しておくこと。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	11	**自由記述分析の実践** **～生成AIによるグループ解析・分析とミニ発表～** 来訪者アスキングデータに含まれる授業用の自由記述データを用いて、生成AIを活用しながら要約、分類、論点整理を行う。頻出意見、印象的な意見、不満や期待を整理し、原文と照合して分類漏れ、過度な一般化、少数意見の欠落がないかを確認する。最後に、グループごとにミニ発表を行う。	事前:課題データから、頻出意見や印象的記述をいくつか抽出し、どのような分類ができそうか考えておくこと。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	12	**分析結果の整理と統合** **～四つの分析結果から問題候補を導く～** 単純集計で全体傾向を把握し、クロス集計で属性や条件別の傾向の違いを捉え、相関分析で数値項目間の関連を確認し、自由記述分析で背景や理由を補うとい	事前:第4回から第11回までの分析結果を見直し、重要だと思う問題候補を一つ挙げ、その根拠となる複数のデータを整理すること。(90分)

		う一連の読み方を整理する。複数の結果を組み合わせ、第13回以降の総合実践に向けて問題候補をグループごとに絞り込む。	事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	13	**応用実践Ⅰ** **～実務に即して作成した教材データを用いた問題抽出～** これまで扱った単純集計、クロス集計、相関分析、自由記述分析の結果を持ち寄り、優先的に捉えるべき問題を抽出する。数的データと自由記述データを組み合わせ、主要な問題を明確化する。	事前:第4回から第12回までの分析結果を見直し、重要だと思う問題を一つ挙げ、根拠データを整理すること。(90分) 事後:議論結果の論点整理(90分)
	14	**応用実践Ⅱ** **～課題設定と具体的方策の構築～** 前回抽出した問題をもとに、その問題を解消するために取り組むべき課題を設定し、さらに課題解決のための具体的方策を検討する。分析結果を根拠として用いながら、発表資料の構成を行い、グループで発表資料を作成する。	事前:第13回で整理した問題について、その問題を解消するために必要だと思う課題を一つ以上挙げ、具体的方策を二つ以上整理しておくこと。(90分) 事後:発表の準備(90分)
	15	**応用実践Ⅲ** **～発表と総括～** グループごとに、教材データの解析と分析に基づいて抽出した問題、設定した課題、検討した具体的方策を、発表資料を用いて発表する。発表後は講評と振り返りを行い、観光におけるデータとデジタル活用の意義を総括する。	事前:発表の準備(90分) 事後:発表内容と講評を踏まえ、自分たちの提案の改善点、追加で必要だと思うデータ、さらに深めるべき分析を整理すること。(90分)
学生に対する評価 Assessment Criteria	成績評価の方法・基準 / Grading Method and Criteria: 本授業では、第5・7・11回のミニ発表10%、リフレクションペーパー40%、最終グループ発表40%、授業内課題および討議・分析作業への参加状況10%により評価する。 フィードバック / Feedback: リフレクションペーパーへのフィードバックとして、思考過程が特に秀逸な記述を数点取り上げ、評価の理由とその理論的背景を丁寧に解説する。		
時間外の学習について Preparation and Revision outside Class	学生は、1時間の授業に対して少なくとも1時間の復習と1時間の予習をすることが求められる。		
テキスト Textbooks	授業で使用する資料は、デジタルデバイスを用いて、原則として授業前日までにPDFで配布する。		
参考書・参考資料等 References	授業中に適宜紹介する。		
備考 Remarks	・授業では、教員が授業用に整えた来訪者アスキングデータを教材データとして使用する。 ・本授業では、個人情報、機密情報および未公開情報を含むデータは使用しない。また、これらの情報を生成AIに入力してはならない。 ・生成AIの出力はそのまま正解として扱わず、元データおよび表計算ソフトによる処理結果と照合する。 【実務経験を活かした授業】 担当教員は、地方自治体やDMOにおけるDX導入支援、来訪者データの収集・分析・政策提言、データ活用人材育成講座の開設・運営等の実務経験と研究経験を活かし、授業を行う。		